

研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進状況に関するアンケート調査 (その1) 大学・研究機関における男女共同参画の推進状況に関する意見・感想

このアンケートに41の質問があります。

アンケート1：大学・研究機関における男女共同参画の推進状況に対する意見・感想

【お願い】

- 回答の重複を避けるため、このアンケートへの回答（送信）は「1回のみ」としてください。なお、最後の「送信」ボタンをクリックするまでは、何度でもやり直すことができます。
- 画面右上の「あとで続きをする」をクリックすると、途中までの回答を保存することができます。保存した回答は、画面右上の「未完了アンケートの読み込み」で呼び出すことができます。
- 所要時間は10分程度です。

【お断り】

本アンケートは匿名でご回答いただけます。WEB回答の情報によって個人が特定されることはありません。ご所属の大学・研究機関名をお伺いするのは、2019年3月に実施した大学・研究機関向けアンケート結果との比較照合をするためです。今回のWEB回答が直接、所属先の大学等に送付されることはありません。

データは、全国ダイバーシティネットワークの幹事機関である大阪大学と日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会及び同アンケート検討小分科会が共有し、男女共同参画分科会が全国ダイバーシティネットワークの協力を得て分析を行い、公表します。

なお、大学・研究機関別の結果は、公表しません。ただし、回答が大学・研究機関別に一定数（個人を特定できないレベル）に達した場合、各機関における環境改善等に活用していただくことを目的に、一定の条件を付した上で、各大学・研究機関に関するデータを当該大学・研究機関の求めに応じて提供する場合があります。その際、個人を特定できないように、以下の通り配慮します。

- 回答者の属性に関する情報（「0. 基礎情報」）は提供しません。
- 「0. 基礎情報」と「1. ～6. 設問」の関連付けは必要最小限にとどめます。

本アンケートの趣旨についてはこちら (<https://www.opened.network/questionary/questionary-0002/>)

0. 基礎情報（1）

0-1.

あなたの所属する大学・研究機関名を選択してください。*

① 'その他（大学・研究機関名を入力）'を選んだ場合は次の欄に特定してください。
以下からひとつだけ選んでください。

- あ
- か
- さ
- た
- な
- は
- ま
- や
- ら
- わ

その他（大学・研究機関名を入力）

0. 基礎情報（2）

0-2.

あなたの専攻分野（所属学部ではありません）を下記から選んでください。*

以下からひとつだけ選んでください。

- 人文科学
- 社会科学
- 理学
- 工学
- 農学（獣医学・水産学を含む）
- 医学
- 歯学
- 薬学
- 看護学
- 保健その他
- 家政
- 教育
- 芸術
- その他

0-3.

現在の職階あるいはポストを下記から選んでください。

1) 現在の職階・ポスト*

以下からひとつだけ選んでください。

- 執行部（総長・学長・理事など）
- 役職者（副学長・学長補佐・研究科長・学部長・評議員・センター長・学科長・室長など）
- 教授
- 准教授
- 講師（常勤）
- 助教
- 助手
- 非常勤講師（本務校なし）
- 研究所やセンターの研究者
- 博士研究者
- オーバードクター等（所属先なし）
- 博士後期課程在籍者
- その他

2) あなたのポストは任期付きですか？*

以下からひとつだけ選んでください。

- 任期付きではない
- 任期付きである

0-4.

あなたの属性について下記から選んでください。

1) 性別（性自認にしたがって答えてください。）*

以下からひとつだけ選んでください。

- 女性
- 男性
- 決めていない・答えない

2) 年代 *

以下からひとつだけ選んでください。

- 25歳未満
- 25歳以上30歳未満
- 30歳以上35歳未満
- 35歳以上40歳未満
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳以上

1. 男女共同参画の推進（全般）（全3問）

1-1.（全般）

大学・研究機関（以下、大学等という）における「男女共同参画の推進」について、どのように思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 大学等における「男女共同参画の推進」はきわめて重要である。	<input type="radio"/>				
2. 自分が所属する大学等は「男女共同参画の推進」を重要な方針として位置づけている。	<input type="radio"/>				

1-2.（取り組みの効果）

大学等における「男女共同参画の推進」をはかるために、どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 総長・学長が率先して「男女共同参画の推進」に力を入れていることを表明するべきである。	<input type="radio"/>				
2. 大学等内に「男女共同参画室」など独立した責任ある組織を作るべきである。	<input type="radio"/>				
3. 大学等内に男女共同参画推進のための研究組織（ジェンダー研究センター等）を設置するべきである。	<input type="radio"/>				
4. 学生向けに、男女共同参画関連科目（女性学・ジェンダー学・女性リーダー論など）を積極的に開講するべきである。	<input type="radio"/>				

1-3.（パートナー関係）

大学等での手続きや処遇に関して、夫婦・パートナー関係に関する何らかの困難や不都合を感じたことはありますか。*

以下からひとつだけ選んでください。

- 困難を感じた
- とくに困難を感じたことはない
- 該当しない

「困難を感じた」と回答した方にお伺いします。あてはまるものすべてにチェックしてください。（複数選択可）

次の条件が満たされた場合のみ回答：

回答は「困難を感じた」質問で「23 [Q13]」（1-3.（パートナー関係）大学等での手続きや処遇に関して、夫婦・パートナー関係に関する何らかの困難や不都合を感じたことはありますか。）

あてはまるものを全て選んでください。

- 夫婦帯同制度（夫婦・カップルが同一大学あるいは近隣地域で就業できるように配慮する制度）がなかった。
- 通称名使用が認められなかった、あるいは、使用に制限があった。
- 事実婚のパートナーを配偶者扱いにしてもらえなかった。
- 同性パートナーを配偶者扱いにしてもらえなかった。
- 国の表彰制度等で通称名を使えなかった。
- パスポートの氏名・性別欄等に関してトラブルがあった。

2. 男女共同参画の取り組み（全4問）

2-1.（数値目標設定）

女性研究者比率の数値目標設定について、どのように思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. すべての研究分野について女性研究者比率30%以上を目指すことが望ましい。	<input type="radio"/>				
2. 女性研究者比率の数値目標は50%に設定して、可能な限り男女半々を目指すべきである。	<input type="radio"/>				
3. 女性研究者比率30%目標を達成できるほど女性候補者がいない。	<input type="radio"/>				
4. 女性研究者比率の数値目標設定は、男性研究者のチャンスを奪うことにつながる。	<input type="radio"/>				
5. 数値目標を設定した結果、女性研究者の意欲が高まっている。	<input type="radio"/>				
6. 数値目標を設定した結果、能力が低い女性研究者を採用せざるをえなくなっている。	<input type="radio"/>				
7. 数値目標を設定した結果、採用・昇進が決まったと思われるのは女性研究者にとって屈辱だろう。	<input type="radio"/>				
8. 自分が所属する大学等では、数値目標の達成に向けた努力は足りない。	<input type="radio"/>				

2-2.（女性のエンパワメント策）

女性研究者が十分に能力を発揮するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 女性比率がとくに低い分野や部局について、女性限定採用または女性優先採用を実施するべきである。	<input type="radio"/>				
2. 女性を採用・昇進させた部局等に対して、人件費ポイント制等におけるインセンティブを付与するべきである。	<input type="radio"/>				
3. 教員等の業績評価に当たって、育児休業・介護休業期間を勤務時間として換算するべきである。	<input type="radio"/>				
4. 女性研究者をプロジェクト責任者に積極的に登用し、研究費支援を行うべきである。	<input type="radio"/>				

2-3.（意思決定過程への女性参加）

大学等執行部（総長・学長・理事など）や役職者（副学長・学長補佐・研究科長・学部長・評議員・センター長・学科長・室長など）など、大学・部局の意思決定過程に女性が参加することについて、どのように思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 執行部や役職者は男女半々であることが望ましい。	<input type="radio"/>				
2. 執行部や役職者のうち、重要な権限をもつポストには男性がつくほうがよい。	<input type="radio"/>				
3. 学内あるいは部局内には、女性は執行部や役職者に向かないといった暗黙の了解がある。	<input type="radio"/>				
4. 特定の女性教員に役職負担が集中し、過負荷の状態になっている。	<input type="radio"/>				
5. 意思決定に関する重要な会議（評議会・教授会・委員会等）での女性の発言は軽んじられる傾向がある。	<input type="radio"/>				

2-4. (教員採用・昇進の現状)

あなたが所属する大学等における教員等の採用・昇進の現状について、どのように思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 教員等の採用・昇進人事について性別に偏りは無い。	<input type="radio"/>				
2. 教員等の採用・昇進人事の基準・手続等が恣意的で不明確である。	<input type="radio"/>				
3. 教員等の採用・昇進人事に関する審査委員会の委員構成には男女比のバランスが考慮されている。	<input type="radio"/>				
4. 女性の採用は、助教や助手などの任期付きポストに偏っている。	<input type="radio"/>				
5. 男性優位の教授昇進が続いている結果、有能な女性が意欲を失っている。	<input type="radio"/>				

3. ワークライフバランス・育児支援サービス (全3問)

3-1. (実態)

あなたは、これまでに育児休業・子の看護休暇・介護休業を取得したことがありますか。現在所属する大学等であるか否かを問いません。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	取得したことがある	対象者がいたが取得したことはない	対象者がいなかった
育児休業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
子の看護休暇	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
介護休業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

3-2. (育児等と研究の両立の現状)

あなたが所属する大学・研究室等における育児・看護・介護と研究の両立についてどのような現状だと思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 育児や介護で長期休業をとったり、頻繁に休んだりすることについて負い目や不安を感じる傾向が強い。	<input type="radio"/>				
2. 研究室や会議等に長時間拘束される結果、育児や介護に支障をきたしがちである。	<input type="radio"/>				
3. 育児中の研究者が研究室に子どもを連れてきてもよいとの共通理解はない。	<input type="radio"/>				
4. 男性研究者が育児休業を取ることに否定的な雰囲気がある。	<input type="radio"/>				
5. 介護についての支援や理解は進んでいない。	<input type="radio"/>				

3-3. (育児支援)

男女を問わず、教員・研究者の育児を支援するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 育児サービス利用料（ベビーシッター料や保育料など）を補助するべきである。	<input type="radio"/>				
2. 大学内保育園を設置するべきである。	<input type="radio"/>				
3. 育児中の教員等に対する研究補助者の雇用経費を助成するべきである。	<input type="radio"/>				
4. 講義や学内行事・学会等で利用できる保育一時サービスを整えるべきである。	<input type="radio"/>				
5. 育児休業等の制度が、休業を取得しても中長期的に処遇上の差を取り戻すことが可能となるような昇進基準及び人事評価制度であることを明示するべきである。	<input type="radio"/>				

4. ダイバーシティ対応 (全3問)

4-1. (若手研究者支援)

若手研究者（39歳以下の研究者）の研究活動を阻害している要因には何があると思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 若手だからという理由で学会や研究室の事務的な仕事が多く回され、研究活動に支障が出る。	<input type="radio"/>				
2. 就職・昇進のため研究評価でポイントが高い研究を優先せざるをえず、真にやりたい研究ができない。	<input type="radio"/>				
3. 大学等で若手・中堅・シニアの役割分担がうまくいっておらず、若手教員の教育・行政負担が大きい。	<input type="radio"/>				
4. 若手研究者は任期付きポストが多く、しょっちゅう職探しをしている状態におかれて研究に集中できない。	<input type="radio"/>				
5. 子育て期の研究者に対する大学等としての支援や研究室・学会等の理解が乏しく、研究活動に支障が出る。	<input type="radio"/>				

4-2. (女性研究者育成)

女性研究者を育成することがむずかしい理由・背景について、どのように思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 女子中高生が研究や研究者の魅力を知る機会が少なすぎる。	<input type="radio"/>				
2. 保護者や高校教員が研究や研究者のキャリア・パスを理解する機会が少なすぎる。	<input type="radio"/>				
3. 中高生や学部生・院生などの次世代女性が身近なところにロールモデルを見つけにくい。	<input type="radio"/>				
4. 女性は研究に向かないといったアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）が根強い。	<input type="radio"/>				
5. 女性研究者は男性研究者以上に困難が多く、次世代女性に研究者としての進路を勧めることができない。	<input type="radio"/>				

4-3. (LGBT支援)

大学等におけるLGBT（いわゆる性的マイノリティ）支援のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 性的指向や性自認（SOGI）に基づく差別を禁止する旨やLGBT当事者を支援する旨などを大学等の方針として公表するべきである。	<input type="radio"/>				
2. LGBT当事者を講師に招いて、研修会・講演会等を実施し、教職員・学生の理解増進をはかるべきである。	<input type="radio"/>				
3. 授業等で積極的にSOGI/LGBTに関する事項を取り上げ、学生の理解増進をはかるべきである。	<input type="radio"/>				
4. トランスジェンダーが望む通りの性別での勤務・修学を認めるべきである。	<input type="radio"/>				
5. アウティング（本人の同意なく性的指向等を他者に暴露する行為）の重大さについて周知徹底するべきである。	<input type="radio"/>				

5. ハラスメント防止体制（全2問）

5-1. (現状)

あなたが所属する大学等におけるハラスメント相談・防止体制は十分に機能していると思いますか。*

以下からひとつだけ選んでください。

- ① そう思う
- ② どちらかと言えばそう思う
- ③ どちらかと言えばそう思わない
- ④ そう思わない
- ⑤ わからない

5-2. (ハラスメント防止体制の改善)

ハラスメント防止体制の充実・改善に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. ハラスメント研修の受講を教職員全員に義務づけるべきである。	<input type="radio"/>				
2. ハラスメント問題を必修授業や全学共通授業に組み込むなどして、学生の理解増進をはかるべきである。	<input type="radio"/>				
3. 役職者や管理職にはアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）等を含む専門的研修を義務化して、ハラスメント防止責任者としての自覚を高めさせるべきである。	<input type="radio"/>				
4. 大学等で生じたハラスメント事例とその対応・処分結果について、プライバシーを侵害しない範囲で学内に公表するべきである。	<input type="radio"/>				
5. 大学等が決定した措置や処分に恣意性や何らかの偏見（性別・職階・国籍・宗教等による偏見）がないかについてチェックするシステムを作るべきである。	<input type="radio"/>				

6. 医学系

6-0. (所属)

あなたは、医学部医学科あるいは大学附属病院に所属していますか？*

以下からひとつだけ選んでください。

- いいえ
- はい

6-1. (医学教育)

医学部医学科における「男女共同参画の推進」をはかるために、どのような取り組みが必要だと思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

次の条件が満たされた場合にのみ回答：

回答は「はい」質問で「37 [Q60]」(6-0. (所属) あなたは、医学部医学科あるいは大学附属病院に所属していますか?)

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 医学科教員の女性比率を30%程度まで高めるべきである。	<input type="radio"/>				
2. 医学科の役職者(学部長・学科長・評議員など)の女性比率をもっと高めるべきである。	<input type="radio"/>				
3. 医学科の教育方針として「男女共同参画の推進」を明示するべきである。	<input type="radio"/>				
4. 医学科のカリキュラムのなかに、男女共同参画関連科目(ジェンダー科目など)を設置するべきである。	<input type="radio"/>				
5. 医学科の入試では、面接時に2名以上(延べ数ではなく、面接1回あたりの人数)の女性教員を参加させるべきである。	<input type="radio"/>				

6-2. (女性医師のキャリア継続)

女性医師のキャリア継続を阻むものは何だと思いますか。あてはまる番号を選んでください。*

次の条件が満たされた場合にのみ回答：

回答は「はい」質問で「37 [Q60]」(6-0. (所属) あなたは、医学部医学科あるいは大学附属病院に所属していますか?)

各選択肢について、適切な回答を選択してください。

	① そう思う	② どちらかと言えばそう思う	③ どちらかと言えばそう思わない	④ そう思わない	⑤ わからない
1. 医師としての業務負担や責任が重すぎて、仕事と家庭が両立しにくい。	<input type="radio"/>				
2. 育児休業取得や勤務時間短縮を迷惑だとみなす傾向が強い。	<input type="radio"/>				
3. 希望や事情に応じて働きやすい部門に配置転換するなどの配慮・ゆとりがない。	<input type="radio"/>				
4. 本人の世帯収入が高く、経済的不安がないので、キャリア継続にこだわる必要がない。	<input type="radio"/>				
5. キャリア継続に関する不安を相談できる体制が整っていない。	<input type="radio"/>				

7. 自由記述欄

日本の学術全体あるいは所属機関等における男女共同参画の推進についてご意見があれば自由に記述してください。

ここに回答を記入してください：

以上で、アンケートは終わりです。
最後に必ず「送信する」をクリックし、回答を提出してください。
ご協力ありがとうございました。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

<アンケート2>の回答がまだの方は、引き続き、以下でご回答ください。

アンケート2：研究環境に関する意見・感想 (<https://survey.ids.osaka-u.ac.jp/index.php/201902>)



Progressive Initiatives of
Empowering Network for Diversity

OPeNeD - 全国ダイバーシティネットワークのホームページへ (<https://www.opened.network/>)

2020/01/15 - 23:59

回答を提出してください。

アンケートはこれで終了です。ご協力ありがとうございました。